# ウポポイに大型遊具広場「トムトム」

遊具の前で行われたテープカット

イタオマチプ（板とじの舟）の遊具

ウポポイに屋外大型遊具広場「トムトム」が誕生、４月28日にオープニングセレモニーが行われました。

遊具は幼児用のシペ（サケ）の滑り台、児童用のイタオマチプ（板とじの舟）の遊具、コロコニ（フキ）の休憩所などがあり、アイヌ民族の生活空間の水辺をモチーフにしたものです。イタオマチプは高いところで４ｍもあります。

セレモニーには町内の保育園児約50人が出席。村木美幸民族共生象徴空間運営本部長、野本正博館長、大塩英男町長がテープカットしました。

トムトムはアイヌ語で「ぴかぴか光る」の意味があります。

知っておこう アイヌ文化

## 香典は必ず出せ

イランカラプテ。白老アイヌの詩人、森竹竹市（1902～76年）が生前に書き残したアイヌ民族の伝承を集めた『森竹竹市遺稿集 ウェペケル ～アイヌ語と物語世界～』には、「ウェベケリ（あの世に行った話）」という物語が記されています。この物語のあらすじは次の通りです。ある日、主人が猟に出かけると、今まで見たこともない穴が崖下にあり、惹きつけられるままに穴へ入って進んでいくと別世界にたどり着いたと言います。その世界には死んだはずの人々が暮らしており、とある一軒の家に惹かれて入ってみると、主人の亡くなったはずの父と母が怒った顔で並んで座って、主人にこう言いました。「お前をここに呼びつけた訳は、今までどこで不幸があっても、死者に対する別れの供物を一度だってお前達は出さなかった。供物として食べ物を捧げることで火の神によって冥土へ届けられ、食べ物を出した人の親類だけが招待されて饗宴が開かれるのに、お前達は供物を出さなかったので私達は一度も饗宴に呼ばれず飢餓に陥っている。早く娑婆に戻って、お前の妻や子供達によく言い聞かせ、これからどこで不幸があっても忘れず供養のための供物を出しなさい！」その後、家に戻った主人は体調不良が続き、早死にしたと言います。そして、主人の妻は子供達に、「どこで不幸があっても忘れず供物を出しなさい！」と言い聞かせ、その人生を終えたと言います。この物語の教訓は『森竹竹市遺稿集 評論』の「アイヌ文化解説」でも「香典は必ず出せ」と記されており、死者や先祖に対する供養の大切さを今に伝える貴重な伝承であります。

問い合わせ先：イオル事務所　チキサニ　☎８２－６３０１